オフィス開始

地元学生起業家が入居

大きな窓の開放感のある空間で、緑あふれるインテリアも特徴

固定の席を持たずに自由に席を選べるフリーアドレス制を採用し、カウンターテーブルやソファシートなどで構成している。大きな窓の開放感のある空間で、緑あふれるインテリアも特徴だ。

ウェブ会議などに使える遮音性の高いブースや、高濃度の酸素を吸引することで疲労回復効果が期待できる酸素ルームも設置。グループの従業員が利用するほか、7月から九州大学法科大学院生の髙重敬太氏が代表を務め、動画撮影・編集業務、SNS運用などを手掛ける企業が入居した。

若手起業家を応援するとともに、若いアイデアを会社運営に生かすのが狙い。鳥屋正人社長は「それぞれの強みを生かして価値を生み出すことが重要になると考えており、オフィスを共にすることで若手の力や知恵を借りたい。同業・異業種にかかわらず入居者を募っている」と語る。

（園川萌子）

小学生エコ絵画コン 来月1日から募集

福ト協

福岡県トラック協会（二又茂明会長）は9月1日から、県内の小学生を対象に、小学生エコ絵画コンクール作品展の作品募集を始める。11月28日に締め切り、2026年2月15日に表彰式を開く。

テーマは「わたしのたいせつなしぜんとゆめのトラック」（学年共通）。1次審査、2次審査を経て学年ごとに最優秀賞、優秀賞、優良賞など入選作品を選び、賞状と副賞、参加賞を贈る。

前回は、県内の小学校83校から3588点の応募があった。今回も、県教育委員会、県私学協会、福岡市及び北九州市教育委員会、西日本新聞社が後援する。

（武原顕）

チャオヤンタイヤ活用

今井運送 経費を大幅削減

今井運送（今井麻衣子社長、広島県廿日市市）は、中国タイヤメーカー、ZCラバーのトラック用タイヤ「CHAOYANG（チャオヤン）」を採用し、コストを大幅に削減している。品質面も問題なく、ドライバーから好評だ。また、代理店契約を結んでおり、今後は販売事業の拡大にも力を入れる。

チャオヤンタイヤは、日本の総代理店としてヨロズ物流（新谷剛社長、大阪府富田林市）が中国から輸入・販売。ZCラバーは中国では1位、世界でもトップ10に入る売上高のグローバルタイヤメーカーだが、日本でのシェアは高くない。

今井運送は、重量物や建築資材など多様な荷物を取り扱い、全国各地に届けている。10年前から別メーカーの中国製のタイヤを活用していたが、種類が少なく用途が限られるのがネックだった。

経費を抑えられる半面、手間が掛かるため使用を中断していた時に、チャオヤンタイヤを知り、2022年5月から採用。現在、保有するトラック180台の大半に、チャオヤンの夏タイヤとスタッドレスタイヤを季節に応じて装着している。当初から現在までトラブルは発生しておらず、コストパフォーマンスの高さを評価する。

チャオヤンタイヤを前に今井社長㊨と整備士の佐々木氏

整備士は本社に4人配備しているが、このうちタイヤを専門に扱う整備士に佐々木真琴氏を選任。本社管轄車両の管理や整備、点検、タイヤのローテーションなどを行う。日常的にドライバーと密にコミュニケーションを取りながら、異常がないか確認している。佐々木氏は「導入から3年経ったが、日々タイヤの状態を見ていても問題はない」と話す。

また、群馬など県外の営業所でのタイヤ整備を徹底するため、地元のタイヤ専門整備会社と関係を構築。11月中旬から予定しているスタッドレスタイヤへの付け替え作業から連携する。

一方で、代理店としてチャオヤンタイヤの販売事業も行っている。今後は、メンテナンス対応を強みに、整備と併せたタイヤの導入を提案する。

今井社長は「元々中国メーカーへのマイナスイメージはなく、大阪にタイヤが保管されていることにも魅力を感じて選択した。また、当社で整備体制を構築していたことで、更なる経費の削減効果につながっている。近隣エリアの同業者の役に立てるよう、こうしたメリットを共有したい」と話している。（宮本晶子）

トレーラ事故防止へ研修

中ト協 視野障がい「早期発見を」

開催地を代表してあいさつする広ト協の沖藤重量鉄鋼部会長

中国トラック協会（小丸成洋会長）は5日、トレーラの事故防止と特殊車両通行制度に関する研修会を広島県トラック総合会館（広島市東区）で開き、事業用トラックによる交通事故の特徴や対策などを学んだ。

開催地を代表して、広島県トラック協会重量・鉄鋼専門部会の沖藤克治部会長が「特車通行許可手続の簡素化や短期化を働きかけるとともに、付与条件を小限にするため、全国トラック協会と連携した要望活動を展開している。国の施策に反映されるよう、粘り強く対応する」と報告した。

中国運輸局自動車技術全部の中原正雄保安・調整官が「事業用トラックの事故防止」をテーマに講演。トレーラの事故類型では左への進路変更・追突が4割を占め、行動折が多いことをデータで示し、注意を促した。

高齢者の視野障がいに言及し、「自覚症状がないまま運転してしまうと大事故につながる恐れがある。スクリーニング検査による早期発見・視野検査による早期発見は大事だ」と強調。また、季節の雪道での立ち往生をなくすため、「運行計画の変更を検討してほしい」と促した。

全ト協道路・施設部会博司部長が、全ト協重点会の活動状況を報告した。

（矢野孝政）

地元七夕祭り参加

ラッピングトラック 観光資源PR

大ト協東支部

大分県トラック協会の大分東支部（石榑誠二支部長）は1日、大分七夕まつりのオープニングパレードで、鶴崎林商運輸（同社長、大分市）のラッピングトラックを走らせ、交通事故防止や地域振興の取り組みをアピールした。

大分七夕まつりは、市中心部が七夕飾りで彩られ、山車と踊り隊が街を練り歩く「府内戦紙（ばっちょう）」などが有名なお祭りで、多くの人々が訪れる。当日、助手席に石榑支部長を乗せたトラックがパレードで走行した。アナウンスでは、地元の観光をPRするラッピングトラックの作製や、安全を呼び掛ける街頭活動といった取り組みが紹介された。

大ト協（仲浩会長）は、2022、23の両年に県下18市町村と連携してラッピングトラックを作製。大分市と連携して作製した鶴崎林商運輸のトラックには、高崎山自然動物園のサルや名物の唐揚げ、温泉、大分七夕まつりの府内戦紙などが描かれている。

パレードで鶴崎林商運輸のトラックが走行

石榑氏は「足立信也市長に『ラッピングトラックをつくったので七夕まつりなどで市民に広くお披露目させてほしい』と提案したところ、パレードに参加することになった。初参加だったが、多くの観客が写真を撮影する姿を見て、一体感を感じている。大分東支部で独自に地元の魅力をアピールするラッピングトラックを作製し、七夕まつりで走らせることも視野に入れている。地元の観光振興を手伝いたい」と話している。

（高松美希）

コミュニケーション重視

人に仕事を合わせる

Miyamaコーポレーション社長 降籏 美香氏

「面談や日頃のコミュニケーションを通じて不満や要望、スキルアップの目標などを聞くようにしている」と話すのは、Miyamaコーポレーション（福岡県宇美町）の降籏美香社長（53）。

年2回の「プラス思考面談」に加え、日常的な会話を「立ち話面談」と位置付ける。「面談時に聞いた不満や要望は、管理職会議で話し合い、実現の可否と、いつなら実現できそうかを必ず答えるようにしている。また、立ち話面談も、いつ、誰と何を話したか、管理職と共有している」

更に、新入社員に対しては居場所をつくるため、半年から1年のメンター期間を設定しており、「乗り越える。管理職には、ドライバーが困り事を言いやすい環境づくりを進めることが管理職の仕事だと伝えている」

食品や飲料、雑貨輸送を行い、軽車両、1～4トン車、大型車、トレーラなどを保有。各部門の給与や仕事内容、拘束時間を社員にオープンにし、スキルアップの目標を定めやすい環境を整えている。また、高齢者に特化したライフサポート事業、ドローン事業、アジア向け個別配送サービスなど、新規事業を立ち上げ、腰を痛めたドライバーも働ける仕事を用意してきた。

「元々、軽車両のみの会社だったが、『人に仕事を合わせる』をモットーに様々な事業を推し進めている。新型コロナウイルス禍で売り上げが落ち込んだ時、ピンチをチャンスにするため複数の新規事業を立ち上げ、軌道に乗ってきた。社員にスキルアップの機会を平等に与えるのはもちろん、ドライバーの年齢層が上がる中、長く務められる環境を整えたい」

一方、管理職がランチスター戦略を学ぶなど、営業面でも学びを重視する。降籏氏も現在、法政大学経営学部の大学院で経営学を学んでいる。「ドライバーの給与は積載量で決まるため、小さい車両に乗るドライバーの給与は低くなる。経営の知識を身に付け、これまでと異なる付加価値を生み出し、ドライバーの給与に反映させていきたい」と意気込む。

（髙松美希）

（面担 田村）